

# 「東日本大震災アーカイブズ(現在進行形)」 開設のねらい

代表取締役専務 岡山信夫

農林中金総合研究所は、全国農業協同組合中央会(全中)・全国漁業協同組合連合会(全漁連)・全国森林組合連合会(全森連)と連携し、東日本大震災からの復旧・復興に農林漁業協同組合(農協・漁協・森林組合)が各地域においてどのように取り組んでいるかの情報を、過去・現在・未来にわたって記録し集積し続けるために、新しいホームページ「農林漁業協同組合の復興への取り組み記録～東日本大震災アーカイブズ(現在進行形)～」を3月9日に開設した。<http://www.quake-coop-japan.org/>

その目的は、地域ごとの農林漁業協同組合の取り組みと全国からの支援活動の記録を将来に残すと同時に、情報の共有化を図るためである。

## 1 地域ごとに異なる復旧・復興の記録

東日本大震災は、①東北から関東にかけて約600キロにおよぶ太平洋沿岸の各市町村が地震被害に加え津波の来襲による壊滅的な被害を受けたこと、②さらに福島原発事故による原子力災害が原発近隣地区への深刻な影響をはじめ、広範囲に被害をもたらしていること、に際立った特徴がある。被災地ごとに被害の実態は異なり、それぞれの地域の実態に合わせた地域ごとの取り組みがある。また、福島原発事故による被害の複雑性は、復興の形態をより多様なものにするようになるだろう。

それゆえ、それぞれに異なった復旧・復興の記録を地域ごとに残すことが必要になる。

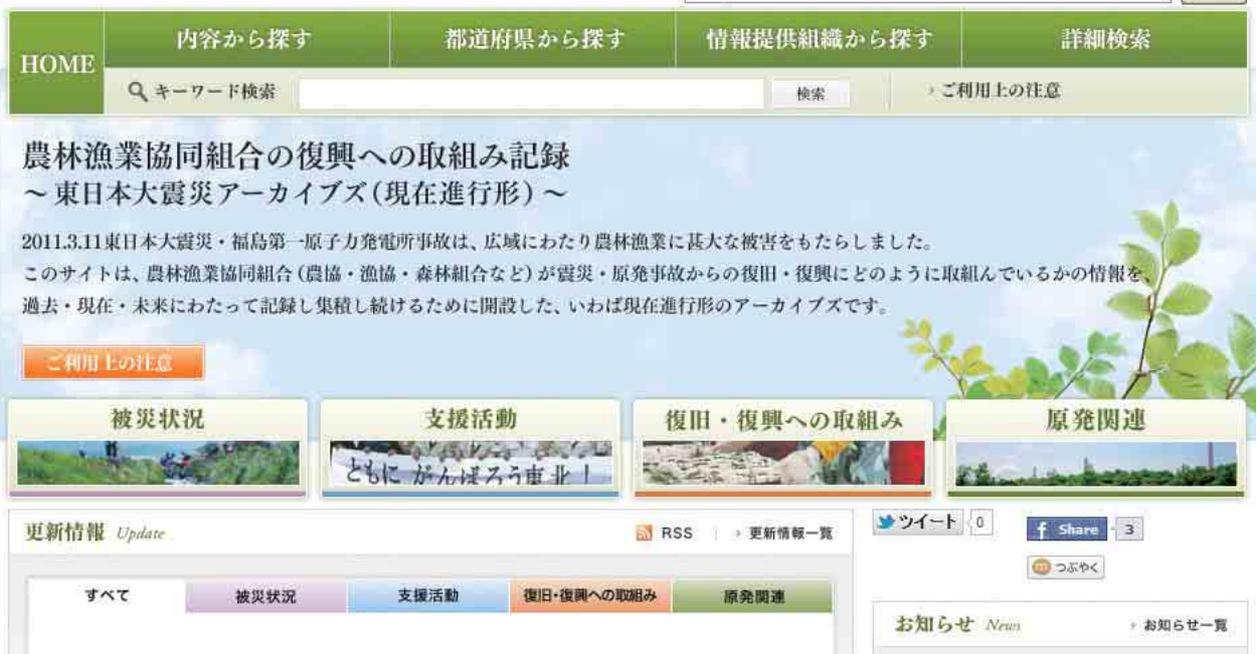
## 2 現在進行形のアーカイブズ

新ホームページ開設時点での情報数は、農協系統の支援情報を中心に600件を数えるが、それは未だ記録の一部にすぎず、今後、さらに多くの記録が寄せられることになるだろう。復興の取り組みはこれからが本番であり、また、原発事故への対応も今後長く続けなくてはならない。さらに、全国・各県からの支援も長期にわたるものになるものと予想される。阪神・淡路大震災では復興に10年以上を費やしたことに鑑みても、東日本大震災からの復興には、さらにそれ以上の長期にわたる取り組みが必要になることが確実である。このアーカイブズも震災後1年間の記録にとどまらず、これから復興が成るまで続く、未来にむけて走り出した、まさに現在進行形のアーカイブズであり、将来永久に残されるものである。

## 3 ホームページの概要

新ホームページに掲載される情報は、全国の農林漁業協同組合から寄せられる公表可能の情報である。開設にあたって、農協系統では全中・各県農協中央会が情報の取りまとめを行い、漁協系統ではまず全漁連の情報から掲載することとし、森林組合系統では全森連を中心に、このホームページも活用して情報を集積していくこととしている。とくに被災県の現場では復旧・復興の実務に追われ、現段階では記録を整備する時間を十分にとることが難しかったことから、多くの記録は今後提供されることになるものと思われる。

掲載情報は、被災状況、支援活動、復旧・



復興への取組み、原発事故関連の4分野に整理され、それぞれ、地域別、取組み主体別、時系列等で、掲載情報をまとめて見ることができるようにしている。例えば、「この一年間の新潟県からの支援状況」を知りたい場合には、地域から新潟県を選択し、分野から支援活動を選択すれば、新潟県からの支援情報をまとめて検索することができる。さらに復興情報や、原発関連情報では、必要に応じて行政情報も掲載していく計画である。例えば各県・市町村の復興情報を各協同組合の活動と併せて見る場合の利便性を考慮し、被災市町村の復興計画等を参照することができるよう準備している。

#### 4 今後の活用に向けて

当総研では、復旧・復興調査研究を最重要課題として位置づけ、昨年4月以降、被災現地を何度も訪問のうえ、被災地の現状や課題についてレポートしてきた(当社ホームページ

に震災復興関連コーナー「東日本大震災復興に向けて」を設置し、関連情報を掲載)。同時に、「農林漁業協同組合の取組みを記録し将来に残していかなければならない」、との思いから記録集積プロジェクトを立ち上げたが、上述のように、被災地域は広範囲にわたり、その取組みも極めて多岐にわたることから、「当社の調査のみでは一定範囲の記録にしかならない」、ということも明らかだった。そこで、全中との協議も経て、インターネット上に各団体からの投稿によるアーカイブズを構築することとしたのである。

新しいホームページの開設は、スタートラインにすぎない。この試みが、今後、農林漁業協同組合各団体の取組みの共通基盤として活用されるよう、さらに多くの団体から掲載情報が提供され、現地の状況や協同組合の貢献を伝え続けられることを期待している。

(おかやま のぶお)